

【2020年1月24日に東芝機械に送信した電子メール】

東芝機械株式会社
富永様

下記メール1行目の（以下「坂元様」といいます）の部分の坂元様の漢字が間違っております。

大変申し訳ありませんでした。修正したものを再送いたします。

取締役会の方々に連絡をお願い致します。

東芝機械株式会社 取締役会 御中

2020年1月24日付日刊工業新聞の坂元代表取締役副社長（以下「坂元様」といいます。）のインタビュー記事（以下「記事」といいます。）を拝見いたしました。

その中で坂元様は「我々もこれまでも臨時株主総会に開いて議論しよう、そのために時間がほしいとしてきた。（書簡をみて）分かってくれたと思っているところだ」と話されています。貴社取締役会は、株主総会の意向に基づいて廃止した買収防衛策について、取締役会決議のみで株主の意思に反して復活されたのであり、「これまでも臨時株主総会に開いて議論しよう、そのために時間がほしいとしてきた。」というお話は納得のできるものではありません。

しかしながら、「臨時株主総会を開いて株主の意思を確認する」という点については、貴社と弊社との間で意見の一致を見ましたので、この点は良かったと思います。昨日のメールでも書かせていただいたとおり、株主の意思をできるだけ早く確認するために、まずは早急に議決権確定のための基準日公告をお願い申し上げます。

また、坂元様は、記事中で「実質的に44%は過半数と同等だ。」「我々にとっては買収」と発言されていますが、弊社子会社による公開買付けの公開買付届出書には、「公開買付者グループは、対象者の現経営陣と公開買付者グループの間で互いに手を取り合い、協力関係を持ちながら持続的な株主価値向上を実現することが可能であると考えており、現経営陣と引き続き対話を続けることにより、経営陣の交代を提案せずとも、株主価値の最大化や、コーポレート・ガバナンスの改善が行われると現時点では考えております。」と明記しております。

最後に、坂元様は「ROE(株主資本利益率)目標は概念的な目標に近かった。元々の株主は東芝でそこに目線が向かっていたのは大きな反省だ。一般株主にしっかりと目を向けたい」と発言されていますが、貴社が ROE 目標の重要性に気づいて上記のような認識に至ったことは喜ばしい限りです。今後は、ROE 目標に真剣に取り組んでいただけるものと期待いたしております。

コーポレートガバナンス・コードにもあるように買収防衛策は経営者の保身を目的とするものであってはなりません。上場企業にとって、最大の買収防衛策は株価を高くすることです。貴社は過去中期にわたり、貴社の株価の株価純資産倍率 (PBR) 1 倍割れ、低 ROE を放置してきました。

貴社は中期経営計画の改訂を 2 月 4 日に公表するご予定とのことですが、貴社には 2019 年 3 月期末で、現預金約 255 億円、政策保有株式約 67 億円があり、今回ニューフレアテクノロジー株式の売却により多額の現金を手に入れることから、合計で約 500 億円程度を現預金またはこれに準ずる流動性のある内部留保として保有しています。

2 月 4 日公表予定の中期経営計画では、坂元様が上記のように述べられた過去の反省のもと、貴社に留保する必要のある資金水準を明確に説明した上で、不必要な内部留保を株主に還元することにより ROE を向上し、株主価値向上を実現することを公約していただけるものと信じております。

弊社は、無理な株主還元をしてほしいと申し上げているものではありません。投資に対してどの程度の利益が生まれのるかを積極的に株主に開示いただき、資本コストを上回る ROE を出せることをお示しいただいた上で、成長のための事業投資等に積極的に資金を用いていただきたいと存じます。

上記のような施策を実行することにより、ROE 8%以上、PBR 1 倍超を実現できるものと考えております。

株式会社オフィスサポート
福島啓修